

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072500467		
法人名	有限会社KSカムレイド		
事業所名	グループホーム松の実		
所在地	福岡県大川市向島2665		
自己評価作成日	平成28年4月16日	評価結果確定日	平成28年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成28年5月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

元外科医院の建物を改築して開業しているので地域との馴染みもあり、近所の方との交流もうまくいっていると感じている。大川ならではの木工祭、東洋一の昇開橋を背景とした昇開橋祭り等地域での催し物にも恵まれている。職員も地元が多く利用者も職員も方言で会話し本当に家族的な付き合いが出来ていると思える。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「松の実」は改装型、2階建ての2ユニットグループホームで、筑後川からも近く、公園などもあり周辺環境にも恵まれた立地にある。家庭的な暖かみのある雰囲気、施設長の朗らかな人柄に惹かれ、開設時から長く勤める職員も多い。当初から地域との関係も深く築かれており、行政や周囲の信頼も厚く、入居者や職員もいつもロコミで集まり、今は満床だが「松の実でない」という強い希望で待機される方もいるほどである。職員に理学療法士がおり、その関係で外部から訪問リハにもきてもらっており、機能改善にもつながっている。入居の長い方も増えてきて、介護度が重くなる方も出てきたが、家族のような一体感で、いつも明るい笑い声と暖かみのある方言などが飛び交っている。今後も引き続き、地域を支える施設としての存在感が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員で話し合った理念を作っている、その理念に基づき実践している。	地域密着型事業に変わった際に、今まであった理念に「地域の中で～」の一文を加えており、玄関やリビングの他、居室内など至る所にも掲示し、どこにいても目に付くようにしている。覚えやすくシンプルな理念で職員も馴染みをもっており、いつでもどこでも見られることにより職員だけでなく、家族や地域の来訪者にも覚えてもらっている。考え方にも身につけており、日頃からの実践にもつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とのふれあいを持ちやすい環境の中に事業所が立地している、地域の方との交流は日々おこなわれている。	地域の方の来訪も多く、民生委員から相談を受けたり、近隣の商店からも認知症の方への対応に関してアドバイスすることもある。地域の木工祭や昇開橋祭り、運動会など行ける入居者も連れて行っている。2年前に十周年記念として、敬老の日に市民センターを借りて、大々的に介護講演会も行った。毎年敬老の日には事業所主体でイベントを企画し、地域の方も招いている。	以前行った介護講習会を開いてほしいとの声もあるので、今後も様々な形で企画を検討されても良いのではないだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護講座を開いたり、敬老会のときなどは理学療法士による講義をおこない、また推進会議のときなども認知症について話したりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議のときは、前回の会議からの事業所の取組みを報告し、それについて話し合いや意見を求めたりしている	2ヶ月ごとに開催し、フロアで会議することで、入居者にも気軽に参加してもらっている。民生委員、近隣商店、市職員、家族代表などが参加し、お便りの配布、行事、状況報告などを行う。報告のほか、勉強会などをすることもある。議事録は管理されているが、基本的にはスタッフルームにしまわれている。会議内で認知症予防に関する要望があり、それ以降は敬老祭の中で体操などの取り組みをするようになった。	会議の議事録を、家族などの欠席者にも郵送で伝えたり、閲覧用に設置してはどうだろうか。取り組みが広く伝えられていくことにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議はもちろんのほか、いろいろな場面で説明を求めたり、指導を受けたり相談したりしている	運営推進会議も毎回案内し、参加もしてもらっている。付き合いも長くなり、なじみ深くなっており、入居者の紹介を受けることも多い。介護申請も窓口を訪問して行っており、何か聞きたいことがある場合もその際に聞くこともでき、電話などでも気軽に相談している。生活保護の方の受け入れもあり、担当課とも定期的なやり取りしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開き、職員全員が拘束についての理解をするようにつとめている。但し2時から翌日6時までは防犯の意味もあり玄関は施錠している	玄関はセンサー管理をしており、施設内の移動も自由である。転落の危険がある方の車いすベルトの利用、自傷防止のためミンの利用があったが、医師、家族との相談、同意の上で、タイミングを見て見直しにもつなげミンは解消された。年間計画の中でも拘束防止に関しては年1回程度研修を行っている。	車いすベルト利用の方の同意書はあるが、支援経過、見直しの検討会の記録が途切れていた、継続的な話し合いと解消に向けた取り組みがなされることに期待したい。

H28自己・外部評価表 (GH松の実)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会をおこない虐待についての理解を深め職員の意識付けをおこなうようにしている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開いている	過去に成年後見制度を使われた方がいたが、現在は別に小口の管理をしている入居者がいる。いずれも入居前から制度利用していた方で、入居後に活用された事例はなかった。説明用の資料や参考図書も準備している。機会がある際は外部研修に参加し、伝達もやっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る範囲で説明し理解していただくよう努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族との会話の中で要望や意見があったときは必ず経営者に伝えるようにして改善につなげている	家族の面会は、ほぼ毎日来る方から2ヶ月に1回程度の方もいるが、その際に意見や要望を聞くことが多い。運営推進会議以外にも年1回の敬老会は家族に案内し、その際は半数くらいが参加されている。2ヶ月に1回発行する「松の実だより」によっても日頃の様子などをお伝えしている。	日頃の様子を更に家族にも伝えていくために、行事や日頃の写真を年に1回、誕生日などでお渡しすることなどを検討されてはいいのではないだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長や代表が現場に入り身近に意見を聞くようにしている	月1回会議があり、昼の落ち着いた時間に行うことで事業所全体で職員が参加している。入居者の情報共有やカンファレンス、行事企画などを話し合っている。自由に意見も出してレクなどにも取り組んでいる。代表や施設長も現場に入っていることで、顔を合わせる機会も多く、日頃から意見も言いやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境作りをこころがけている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用の基準をとくには決めておらず、入社してからの資格取得も支援している	男性職員も多く、半々に近い割合で、年代は20～60歳代まで幅広いが比較的若い職員も多い。食事入居者と同じものが食べられ、負担の少ないように配慮もされている。職員同士のコミュニケーションも良く取られる。資格取得などもシフトに配慮して参加が可能で、希望休暇などのシフト調整にも柔軟に対応している。長く勤める職員も多く、お互いに協力して業務に活かしている。	

H28自己・外部評価表 (GH松の実)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に勉強会を開き指導している	毎年市が主催する人権週間の、研修や講演会などには毎年職員が入れ替わりで参加し、内部での伝達も行っている。内部研修でも人権に関して取り組み定期的な学習機会を持っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の機会があれば可能な限り支援するよう努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加することにより交流できるようにしている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前のある程度の情報を得るようにし、少しでも本人を理解するように努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前にご家族の要望を聞くようにしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り必要なサービスが受けられるよう調べたりして支援するよう努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員に利用者を家族とおもうような意識付けの取り組んでいる		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力が必要なことを理解していただき、事業所の一方向的な支にしないよう努めている		

H28自己・外部評価表(GH松の実)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所に行ったり、交流の機会が出来るよう努めている	使い慣れた物を持ち込み、なじみがもてるような部屋作りをしてもらっている。家族以外でも知人や友人、仕事仲間が訪問してくることもあり、面会もいつでも受け入れており、友人との食事会に出かける方もいる。一時帰宅や外泊をすることもあり、家族に協力して連れ出してもらっている。個別支援で遠方までドライブで行くこともある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、趣味、好みに合わせた交流ができるよう支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者のご家族は近くの方が多いため、割と疎遠にならない関係性が出来ている方だと思う		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の思いを理解できるよう職員間の情報の共有に努めている	入所時に、センター方式の一部を活用して、家族にも直接記入してもらっている。主にケアマネージャーが担当し、書いてもらった情報を元にして聞き取りにつなげる。アセスメントはカンファレンスで話し合った情報を元にして、6か月ごとに担当者が記録に落とし込んでいる。意思疎通の難しい方は、皆が現場に入って接することで、日常のちょっとした変化をもとにして意向の把握につなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用になる前にできるかぎりの情報を得るように勤めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のモニタリング等により把握するよう努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者だけでなくカンファレンスの時などに他の職員から意見や状況を聞くようにしている	毎月行うカンファレンスの中で、見直しの該当月の方と、変化のあった方の状況を共有して全員で話し合っている。職員は担当制でアセスメントとモニタリングを行い、プランの見直しは6か月でその際に担当者会議を開催している。会議には家族、主治医にも参加してもらい、意見も頂いている。プラン目標は毎日の実施も管理することでモニタリングにもつなげている。	理学療法士による訪問リハを受けている方もいるが、そこからの情報提供を担当者会議やプラン作成に活かすことで、より発展的な計画作成につなげてみて良いのではないだろうか。

H28自己・外部評価表 (GH松の実)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録をとるようにし、また特に注意するようなことは申し送りするようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に応じて可能なサービスができるよう努めている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前から利用されていた資源はできるだけ続行できるように支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に添った受診往診ができるよう医療機関と連携に努めている	今までは事業所の提携医を紹介していたが、最近では元々のかかりつけ医でも往診できる所が増えてきて、継続する方が多くなってきた。通院介助は基本的には家族だが難しい場合は事業所からも支援を行っている。職員に看護師が2名おり、日々の健康管理はいずれかで行っている。医療情報は家族から聞いたり、必要時は直接病院とも連絡をとって把握するようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態報告はまめにおこなっている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所として解る範囲での情報の提供おこない、また医療機関からも情報提供を頂くように働きかけている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医とも話し合う機会を設け、その結果、方針などを全職員が理解するようにしている	希望があれば最期まで看取る方針で、今までに看取った方も多い。提携医も協力的で、24時間対応してもらい、必要であれば看護師もほぼ常駐体制で支援している。契約時に同意書を交わすが、「最期は松の実で」と希望される方がほとんどである。献身的な支援によって、ターミナルから持ち直される方も多い。職員も経験を積んである程度の医療対応にも備えている。対象がいる時に勉強会なども集中して行う。	

H28自己・外部評価表(GH松の実)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開いている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練をし、地域の方にも協力は依頼している	防災訓練は夜間想定も含め年に2回以上行っており、消防署の立会いや設備業者にも立ち会ってもらっている。防災袋も各居室に準備しており、直近の地震で改めて見直しにもつながった。備蓄物やAEDも準備があり、救急救命訓練も行っている。避難場所に近くの商店にも協力をお願いしており、地域の方に参加してもらうこともある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気をつけるようには指導している。またふさわしくないと思われた時は注意している	入居者に対しての発言で、気づいたことがある時には管理者や職員同士でもその場で注意するようにしている。男性職員も多いが、同性介助の希望などもなく、プライバシーに配慮したケアを行っている。それぞれの入居者に合わせた対応を話し合っており、失礼のないように親しみをもってもらえる働きかけがなされている。お便りなどの写真利用に関しては事前に口頭で同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく表情をみながら理解するよう努めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員の希望をかなえるわけには行かないが、希望があればできるだけ添うよう努めている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持ち物の中で工夫している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化されてきている利用者が増えてきている中、介助にて食事を摂取、又飲み込みにも時間がかかるかなど思うようにはできないが、そのなかでも努力はしている	メニューと食材は管理栄養士が管理しており、職員が持ち回りで調理を担当しており、できる方には食材の下ごしらえなども手伝ってもらっている。地域の方から差し入れをもらうことも多く、メニューも柔軟に変えている。重度化に伴い、個別の席で食べる方も増え、部屋食にすることもできる。和やかに会話を楽しみながら食事の感想や要望なども聞いて、対応もしている。少人数での外食も月1回程度されている。	

H28自己・外部評価表(GH松の実)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師、介護職、調理職が情報を共有し、またチェックおこない注意している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は難しい時もあるが夕食後だけは必ず行なうようにしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の課題として取り組んでいる	入居者ごとの排泄チェック表があり、一人ずつ月間のチェック表で管理している。それぞれの状況や状態にあった排泄介助を行い、必要な方にはパットを小さいものから大きいものにかえることもある。失敗のあった際も大きな声ではなく、小さな声で呼びかけており相手の羞恥心にも配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々取り組んでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつも個々に添った支援が出来るわけではないが、無理強りするようなことはせず、希望に添うようには努力している	各フロアに1か所ずつ浴室があり、こじんまりとしているため空調管理もしやすい。平均して週2~4回程度入浴しており、時間帯も午前か午後かの希望を聞いて対応している。拒まれる人には無理強いせず時間や曜日を变えて対応し、少なくとも2回程度は入るようにしている。汚染時は随時対応し、看護師が皮膚観察や医療処置を行うこともできる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が働きやすい環境作りをこころがけている個人個人を理解し工夫している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録のなかに説明書を作り貼付している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族に聞き合わせしたりして、ご本人を理解するなかで支援するようになっている		

H28自己・外部評価表 (GH松の実)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な範囲で支援するよう努めている	季節折々の地域行事やお祭り、花見などには年間計画の中で活動しており、それ以外でもその時々で少人数のドライブをしたり、外食に行くことも多い。車いすの方も同じように外出機会を持っている。近くの遊歩道を使って散歩もしやすく、積極的に外出を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力に応じた支援をしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	充分おこなっている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どうしても狭いので生活が密着しており、混乱をおこすようなことは少なく、季節感も感じやすいと思う	こじんまりとしたリビングだが、かえて家庭的な雰囲気が感じられ、代表による味のある絵や作品が飾られ雰囲気づくりに一役買っている。リビングに面した居室と廊下を隔てた居室があり、静かに休むこともできる。オゾン発生装置によって感染症予防にも努め、健康維持にも役立っているという。日当たりもよく、職員や入居者の賑わいもあり、どこか懐かしさも感じさせる居心地の良い空間が作られている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過せることをいつも伝えている。またどうしても気の合う合わないがあるので職員の判断で移動させていただいたりしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し馴染みのものを出来るだけ持ってきていただくよう依頼するがなかなか難しいので出来る範囲で工夫している	入居者によって、絨毯敷きにししたり、畳敷きにししたりしており、ベッドだけでなく布団で休むこともできる。自分の部屋をそのまま持ってきたような雰囲気、持ち込みも自由である。表札代わりに味のある似顔絵が飾られ、共用スペースとの調和もされている。必要な方には介護ベッドを準備して使ってもらえることもできる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	狭い空間ではあるが、出来る範囲で工夫している		